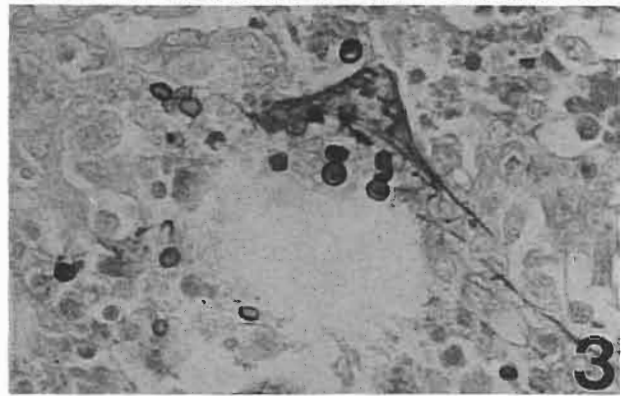
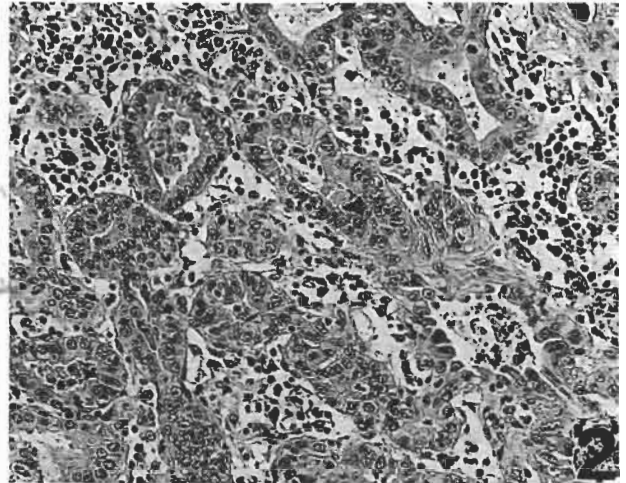
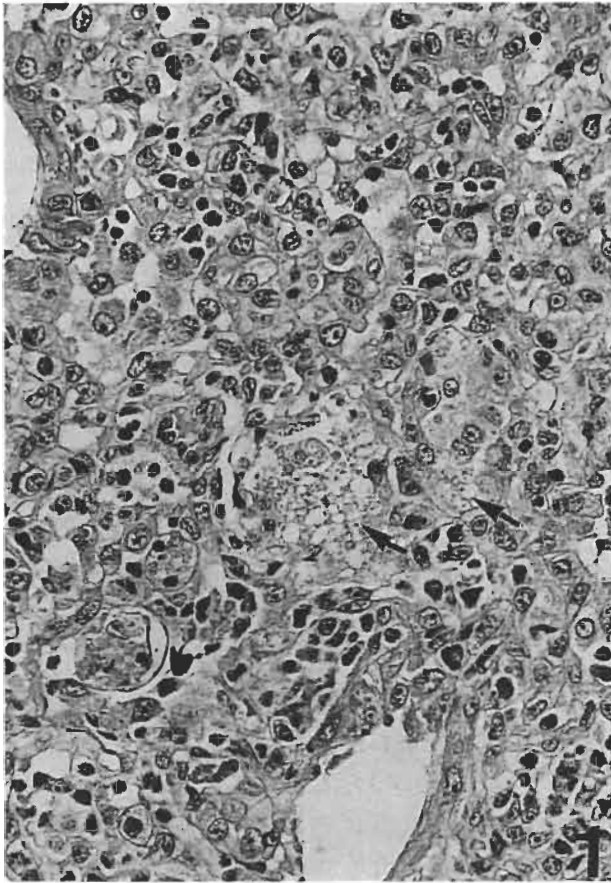


豚の肺

家畜衛生試験場北海道支場第四研究室，北海道石狩家畜保健衛生所 出題
第33回獣医病理学研修会標本No.588



動物：豚，65日齢。

臨床的事項：残飯給餌による一貫経営養豚場で，離乳豚に呼吸困難を主徴とする疾病が多発した。軽度の元気沈衰，食欲減退がみられた後，50日齢前後に，突然著明な腹式呼吸に陥り，呼吸器症状発症3日目頃に死亡が多発した。発症後数日を耐過した例は，発症後1カ月程度で回復した。各種抗生物質による治療は効果を示さなかった。本例は，呼吸器症状発症後約20日を経過した殺例である。肺の直接塗沫ギムザ染色では，8個のintracystic bodyが円形に並んでいるcystがみられた。

剖検所見：肺は胸腔より摘出後も退縮せず，硬度感を増し，左右の前及び中葉の一部を除いて無気肺を呈し，出血斑もみられた。断面は黄白色，充実性で，漏出液はみられなかった。

組織学的所見：間質のリンパ球，形質細胞及びマクロファージの浸潤並びに，肺胞上皮の腫大増生が顕著で，これらにより肺胞は狭小となっていた（写真1，H E，400倍）。肺胞上皮が腺状に腫大増生し，

いわゆる腺様化生を示す部分（写真2，H E，200倍）や，間質が，線維化を示す部分がみられた。肺胞腔内の滲出物中に好酸性泡沫状集塊が散見された（写真1，矢印）。この泡沫状集塊及び肥大した肺胞上皮はP A S陽性を示した。グロコット染色では，泡沫状集塊には，球状または中抜き円状に黒染するcystが散在し，cyst内には一対の黒染する小体がみられた（写真3，グロコット，500倍）。ギムザ染色，グロコット染色及び電顕のcystの所見により泡沫状物を*Pneumocystis carinii*と同定した。

組織診断名：豚の*Pneumocystis carinii*肺炎。

ヒトの*P. carinii*肺炎には，乳児に流行し，組織学的に著しい単核細胞浸潤と肺胞上皮の増生がみられるinfantile epidemic formと，A I D Sなど免疫不全状態の患者に発生し，組織学的には肺胞内の泡沫状集塊の充満が顕著で細胞浸潤が軽度なchild-adult sporadic formが知られている。本症例は発生状況と病理所見からinfantile epidemic formの*P. carinii*肺炎に相当すると考えられた。